八月十九日夕刊

常磐毎日新聞

日曜祭日の翌日休刊

定價一部金貳錢一ケ月金五拾錢郵税五厘
廣告料五段十二行一行金五拾錢
發行兼編輯人印刷人　竹崎文治
發行所　常磐毎日新聞社
福島縣石城郡平町長橋町三五
電話六二〇番
印刷所　常磐毎日印刷株式會社

# 妻よ！

小寺　徹郎

その夜、彼は妻をなぐりつけてゐた。それも生れて唯一度の激怒の爲に、わな〳〵と身体をふるはせながらなぐりつけてゐた。

「貴様は、貴様といふやつは」

蒼白な爆發の中に、彼は眼界が眞黑くなつて、たゞ白い肉体だけがかすんでゐた。

妻は解のわからないいひ解をしながら、ひい〳〵泣いてゐた。それでも彼はなぐりつける手を停めやうとしなかつた。

夫婦といふ者ほど妙なものはない。山育ちのこの女が夜店の散歩がてら、買つてやる、婦人雜誌を讀み出してから、何んとなく明るく利こうになつて來た。本を讀む事も彼にならつて、だん〳〵その程度を高めて來た、彼はこの同化を心秘かに喜んでゐた。

一日中とじこめられた部屋の中に彼の空腹を刺激する香が充滿してゐた。

「おい、今日は何かあつたのか……」

それでも妻はたゞ笑つて申譯けな臺所をがたつかせてゐた。

彼はたゞ、がむしやうに食ひ始めた、それは丁度饑いた家畜が何日目かにあたへられる青草の食事に似てゐる。

「おいお前も食べなよ」

「ええ——」

「とても、おいしいせ」

○明日の献立○

【朝】わさびあへ—花かつを　わさびあへ

【晝】旨煮—するめ　いか　亂切　ごぼう

【晩】わん—小あぢおろし　みめうがの子すまし仕立

「そうお——」

妻は、つゝましく箸を動かしてゐた。

あれ程好きな風呂にも充分に行けない彼達ではなかつたか？

「おい、此の金どこから出して來たのだ」

綺麗に食ひ盡くされた食器の底に指さしてゐた。

「俺達にはもう一錢もなかつたはずではないか」

それでも妻は無言で座つてゐた。

「何故默つてゐるのだ」

彼の懷疑的な氣持は無言な妻の態度へ一層いらいら〳〵して來た。

「まさか貴様はぬすんで來たのではなからうな、おいどうしたのだ」

どすにがい液体が、口の奥から流れ込んで來た。

「おい、いはないか」

いきなり、彼は豊がな妻の毛髪をつかんでた。

「あの——」

「どうしたのだ」

「あの叔父さんから借りて來たの」

「馬鹿」

皆まで聞かず、彼の腕は妻の豊麗な頰の上を力まかせに飛んでゐた。

彼等の世界で唯一人の身寄りの材木屋のおやじである。

今の工場の仕事にやつとありつく前の長い失業——それは慘々たる人間生活のどん底であつた。あせればあせる程深み落ちるどろ沼であつた。

生活苦をくりひろげてゐた

その時、ふつと浮かび出したのが妻の叔父の材木屋のおやじである、彼は頭を底くして頼みこんだ、妻との關係を繰り返し繰り返しのべた。そして救を求めたが、報いられたものは何か？彼の一噶である。

「くどい職工のくせに」

彼は奮激で全身が燃へ立つてゐた、この耐へられない階級的な差別——そのともあらうに、材木屋から金を借りて來た、それだのに〳〵

「恥を知れ、恥を、俺達は犬ではないのだ」

白い肉体に彼の手はふり上げられてゐた、だが妻の氣持が解からないのではない。

ふつと生温い感覺を彼は右足に感じた。おど〳〵おびいて遠慮勝な妻の小さな頭が彼の部厚な胸の上におしあてられてゐた。

「わたし、わたし本當に食べさせたかたの」

彼は解もなくあせばんだ妻の手をにぎりしめてゐた

## ノート

漆にカブレた時は油揚で局部をこするとよい澤蟹の汁もよく利く

公園のベンチで何回となく寢た、あの横柄な沈欝な職業紹介所の門と何回となくくぐつた彼等である。

死——敗慘——

恐らしい生活だつた。

いつかの晩、しみ〴〵と

難に注意【五黄】病氣・俄粉失盗・注意進むに凶逐き守るに吉【六白】金談望事萬事吉人に煽動と家内の口舌に注意【七赤】金談緑談共に吉目上と意見衝突を起さぬ樣【八白】氣運澁滯の日なれば謙遜以て進む勿れ【九紫】金談緑談共に吉戌亥と辰巳は凶なり

八月廿一日己未八白先勝閉

【一白】部下男女に對し營業及び金錢問題より口舌を起す勿れ【二黑】病氣怪俄に注意して家内共に康建守るに吉【三碧】骨折りて頭の上らぬ事多ければ水火の難に注意する事【四綠】離別死別の愁話を聞く事あれは水火の

地相家　人事百般　鑑定

平町堂ノ前一番地
高島易斷所
野澤定象

内科、小兒科、花柳病科
藤沼醫院
入院需應
平町紺屋町
電話五〇七番

貸家
此度裏手に新築移轉する事になりました。就きましては從來の店舗をお貸し致しますから、御希望の方は御來談ドさい。如何なる商賣にも適します。
平町四丁目三九
新妻文吾
◇在庫品整理の爲め大廉賣致します。

恐ろしい疫痢の流行期!!!
◎毎年六月始めより十月と申します
◎死亡率統計百人中六十五人以上こして居ます
まづ豫防に經口免疫の
北里研究所製造　疫痢内服ワクチンを
價格　幼兒一人分三十錢　大人一人分五十錢
（文獻進呈）
特約店　西村屋藥局
平町二丁目　電三

品質第一
電話二六八番
平搾乳所
平町・九品寺前

市原醫院
平町田町
電話一一四番

お醬油は……ヤマフル
醬油味噌
たひら正宗
鰹節食料品
鹽屋
山崎合名會社
福島縣平町【電話營業部一〇釀造工場二七】
明治生命磐城代理店　山崎與三郎

もも讀を字ッ
流風たま

平町に初めての
宋朝活字…到着
此の活字のうまみは、典雅にして高尚！優佳にして自由！
實に裕かな字相であります。

貴下の御名刺と
御書狀に御使用
願ひ上げます。

……(本見)……
織田家支配人
木下藤吉郎
尾張國愛知郡中村
電話鮮滿無線壹番

暑中御見舞申上候
常磐毎日印刷株式會社
平町長橋町
電話六三〇番

# 軟式野球
## 明日愈よ決戰

既報大塚運動具店主催の平町第一回軟式野球大會は愈々明日午前八時より磐中校庭にてOB對エーグル、平商校庭に遞友A組對磐青、第一校庭に三丁目對ツバメ第三校庭に發電所對春陽の試合を皮切りに一齊に開始されるが各球場の審判員は左の如く、決勝戰は磐中球場に於て行ふと

(磐中)水竹　石坂弟(平商)熊　國井(第一)石坂兄　荻野(第三)林　渡邊

# 神宮豫選を
## 目指して勇躍
### 炎天下に各校が練習

平町磐中、平商及び磐女の各中等學校では來る九月十日より福島市に於て本縣體育協會主催の下に開催される明治神宮出場豫選會を目指し目下暑中休暇を利用し係り教諭コーチの下に練習中であるが各種大會の開催日割は左の如くである

△九月十日水泳選手權大會(高商プール)△十七日庭球選手權大會(福女コート)△二十三日籠球排球大會(福女グランド)△二十四日機械體操選手權大會(福師グランド)△卓球大會(福女講堂)△十月七、八日陸上競技南奥羽豫選會(市營グランド)△八日柔道、劍道、弓道大會(武德殿)

# 新ガソリン油の
## 共同購入を協議
### 自動車協會の平支部で

本縣自動車協會平支部では明廿日午後一時より平署會議室に於いて總會を開き今回新らしく輸入された露西亞ガソリンの共同購入に就いて協議すると

# 日大對
## 磐炭の競技

石城郡內郷村磐城炭鑛陸上競技部では明廿日午前九時より同鑛グラウドに日本大學競技部を招き對抗競技會を行ふ

# 地租滯納
## 公賣に附す

平稅務署では本年度前期分地租滯納者二十名金額三百圓に對し過般强制處分を行つたが近く左記日割で公賣に付すと

廿二日赤井　廿三日山田
廿四日上遠野　廿五日田人　廿六日小川

# 縣參一行
## 出納檢査來郡
### 廿一日から

石城郡下各官衙の出納檢査の爲め縣參事會員甲班太田金子、川田、佐藤、原、乙班大內、金澤、加藤、大越馬場の諸氏は左記日割を以つて檢査を行ふ

△甲班(八月廿一日)四倉警察署(廿二日)中の作修築事務所、回春園(廿三日)平警察署、磐城中學校(廿四日)平稅務出張所

△乙班(廿一日)四倉修築事務所、夏井川改修事務所(廿二日)水產試驗場、植田署(廿三日)平土木監督所、磐城高等女學校(廿四日)平蠶業取締所

# 商港修築
## 技術課長視察

內務省土木局福田第二技術課長は來る廿三日來郡小名濱商港修築狀況を調査すると

# 蒟蒻腐敗激烈
## 一反當りの損害三百圓

石城郡山間地方たる田人、入遠野、上遠野各村に於ける重要產物たる蒟蒻に激烈な腐敗病發生し今年の切玉にて一反當りの損害三百圓以上と稱されて居るので郡農會では對策として三年式ボルトー液で驅除する事を將勵して居る當業者間には一大恐慌を來たして居ると

### 平職業紹介所報告

回 人を求める方

△保險外交員　五十才　高卒　給料面談(双葉郡某)
△小店員　十五才　尋卒　給料面談(平町某)
△農夫　三十迄　月十圓外面談(四倉町某)
△女中　三十五才　尋卒　月五六圓(双葉郡某)

回 職を求める方

△女中　十四才　尋卒　給料面談(赤井村某)
△雜夫　四十一才　卒　給料面談(平町某)
△事務員　二十三才　早稻田工手半退　給料面談(好間村某)
△店員　二十五才　高卒　給料面談(平町某)

### 平町人事

回 出生

△鷹匠町四　中根亥之秋氏二男　英雄
△仲間町七二　杉本壽藤氏二男幹雄

回 死亡

△杉平二二　戶主渡邊濟(六〇)
△大工町二二　與助氏二男　齋藤三治(一一)

美味！
芳醇！
宗正らひた
山崎合名會社
電話一〇番

夏期中自動車料金値下
夏期中沼ノ內、薄磯、豐間、江名方面行乘客の御便宜を計り左の通り料金値下げ致します。

片濱料金

| | |
|---|---|
| 沼ノ內 | 二十五錢 |
| 薄磯 | 二十五錢 |
| 豐間 | 三十錢 |
| 江名 | 四十錢 |

期間七月二十五日より八月三十一日迄
片濱乘合營業者

吉田眼科病院
平紺屋町、電話六八番

# 本郡内一帶の地質を調査

## 三方面から手を伸して

本縣教育會では五ケ月計劃で縣下の地質調査を遂げ地質圖を作製すべく今月初旬より十七區域に分けて夫々調査を開始したが石城郡では磐中教諭高清水勇助、錦校訓導福内一信、小名濱校訓導村田春雄の三氏が囑託され高清水氏は來る二十四日頃より之が調査を開始する事になり左の如く語つた

錦の福内氏は小名濱及び小川を中心に、小名濱の村田氏は川前を中心に夫々調査を進める筈で私は平町を中心に四十平方里主もに第四記層（砂礫珪土、火山灰より成る）を調査する事になつて居りますこの區域は以前東北帝大の渡邊、早大の德永兩博士が調査した事がありますから別段困難な區域ではありませんが唯御齋所街道を中心とした邊りは調査に困難を感ずるものと思つて居ります

## 野菜暴落し

### 豊作飢饉の相場

高溫に好照、五風十雨の適順なる天候に惠まれて石城の農作物は伸びよ、熟せよ地上に滿てよ……の豊作ぶりであるがこれが爲めに畑作物の相場暴落し早くも豊作飢饉の悲鳴をあぐる者も現はれたが平町の野菜小賣相場左記の如くである

茄子百ケ五錢　胡瓜三本一錢　ネギ一把一錢　午ボウ百匁二錢　茗ガ一把一錢　里芋百匁五錢　馬鈴薯百匁十錢

## 永井青年視察

石城郡永戸青年團上永井分團員三十餘名は昨十八日小野新町産業試驗支物及び同地方の桑園等を視察して即日歸村した

## 接客業者健診

### 廿日から

平警察署では來る廿八日午前十時より同署會議室に平町三百名の接客業者を招集して健康診斷を行ふと

## ロハ呑の揚句

### 亂暴して

石城郡内郷村大字綴字濱井場居住大工職織田末藏（三八）は去る十八日午後七時頃同村町田カフエーハト方で三圓餘の無錢飲食をなした揚句器物を揚げて亂暴した爲

## すゞみ客に追ひ詰らる

### 賣上金を盜んで

石城郡磐崎村大字湯長谷生れ窃盜前科一犯高野清（三〇）は昨十八日午後十時頃平町田町雜貨商平澤勝太郎方の店先から家人の隙を見て現金七圓在中の手提金庫を窃取逃走したが家人が騒ぎ立てたので折柄の納涼散歩者に忽ち追ひ掛けられ新川町藤太一及び機關手某の兩君に取押へられ平署に突き出され目下餘罪取調中

## ラヂオ体操の會

### 明日終了を告ぐ

去る一日から開始された平町主催のラヂオ體操の會は明日午前六時より第一校は青沼町長、第三校は酒井助役が夫々閉會の挨拶をなし幕を閉ぢる事になつたが參加者は開始以來生徒は殆んど出席、一般者も約百五十名宛あり頗る好成績であつたと尚第三校では引續き今月末迄宿直訓導指導の下にオルガン曲に依つて同體操を行ふと

## 學術秘寶映畫公開

いはき新報社にては明日午後七時より平警察署會議室に於て學術秘寶映畫の夕を催すが此の映畫は名古屋醫大齋藤博士の撮影にかゝはるもので醫學博士の諸橋鐵彌氏及び松村醫師が說明に當り映畫種目は左記の通り

『戀と十手と巾着切』

## 鎌田川で幼女二名溺る

### 勇敢な酒井少年うち一名を救ふ

本日午後一時頃平町鎌田町上杉新太郎二女ナヲ（七）同町上杉助松養女富士子（四）の兩名は發電所附近夏井川の淺瀨で水遊中誤つて深瀨に陷り兩名共鎌田町附近迄流された際平第一小學校高等科一年生酒井勤君が發見水中より引上げナヲは辛ふじて命拾ひしたが富代子は既に遲く如何に手當を加へても蘇生せず平署より檢視官出張したと

## 無免許の魚粕製造

### 試驗場が取締

石城郡下沿岩地方には鰹節製造の殘滓に依る魚粕の製造をなす者が增加したが是等の肥料製造取統法に準據する免許を要するに抱はらず製造者中には免狀を受けて居る者が殆とない實情にあるので近く小名濱水産試驗場では是等魚肥製造者の取統りを行ふと

## 自動車が衝突

石城郡小名濱町鳥居町伊藤勝二（三三）は去る十七日午後二時頃トラックを運轉して安達郡大平村丸森地内縣道を進行中前方より來つた郡山市阿彌陀町高野富士夫（二三）の運轉するサイドカーと衝突サイドカーは大破して運轉手は打撲傷を負つた外傷と輸血、間接輸血法先天性脫關節脫臼、虫樣突起炎の早期手術、畸形の種々、及び番外餘興

## 裁判所だより

△茨城縣久慈郡生れ目下住居不定前科三犯小野瀨彌介（三九）が去月二十九日午前一時半頃石城郡玉川村大字野田字八合小松德松方に窃盜の目的で侵入した窃盜事件の公判は本日午前九時より平區裁判所に於いて香西判事係り清田檢事立會の本に開廷され事實訊問の上檢事の求刑通り懲役一年を言渡された

## 明日のラヂオ

仙台放送局　二十日

天氣豫報

今晩は北西の風驟雨あり明日は北東の風晴雲半

### 今晩の部

▼後六、〇〇 子供の時間 ラヂオ夕涼み（第七日）「インクラインだより」京都インクラインより中繼 BKコドモサークル

▼後六、二五 傳說と史蹟を探ねて「野中兼山の話」寺石正路

▼後七、三〇 講演

▼八、〇〇 義太夫（文樂座より）淨るり 豊竹ばつめ太夫 三味線 竹本南部太夫

▼後八、五〇 浪花節

▼後九、三〇 時報ニュース 氣象通報 番組豫告

### 明日の部

▼前九、一〇 榮養料理献立「鯖のあんかけ」（主料理）「油揚と茄子の煮付」（副料理） 榮養研究

▼前九、三〇（子供の時間）お話 放射線療法 長橋正道

▼前一〇、〇〇 宗教講座「惟神の大道に就いて」官幣大社住吉神社宮司 鈴木松太郎

▼前一〇、四〇 講演

▼前一一、〇〇 講演「ブランクトン（海の微生物）に就いて」東北帝大助教授 理學博士 小久保清治

▼後〇、〇 五滿洲より

▼後一、二〇 落語 三國史 三升家小勝

▼後一、五〇 野球試合實況「一高對三高野球戰」明治神宮外苑球場より中繼

▼後二、三〇 說教節

▼後三、〇〇 世界民謠調べ（第三回）中歐篇

▲後六、〇〇 子供の時間 管絃樂 東京ラヂオ・オーケストラ

▼後六、二五（東北海道）産業講座「寒地に適する稻作多收の要訣」宮城縣柴田農林學校教諭 齊藤義一郎

▼後七、三〇 夏狂言の夕

▼後八、三〇 舞臺劇「伊勢音頭戀寢刃」（油屋十人斬の場）中村福助 市川右團次 一座

# 鉄劍乱刃録

【禁無斷轉載上演映畫】

寶井馬琴演
山本英春畫

## 第二十回　血に飢ゆる村正

仇の口から本名を

兼重『其の内に甚九郎さんが出て、ヤイ兼光さんの家の者をそんなは酷い事をしちア往けねえと、一言いふと私を取卷いて居た奴は皆逃げて仕舞ひました、處へ客人といふ人が出て來て、マア宜い、どうか俺に任して呉れと、仲人になつたので、其の時其の人か片肌脱いだ處を見ると、好い刺青でございました、蟆がバックリ口を開いて居る處で、それに額に大きな疵がございました、スルと甚九郎親分が、イヤ段八さん大きに有難うございました、ナアに若い者達が祭禮で一杯機嫌、殊に彼の兼重といふ人も酒を飲むてえと調子が狂ふといふ事で、と私の耳に入りました、其れから一杯呑ませるからいふので、其の博奕をして居る處は夫ッきりになつて、酒の座敷へ入り、酒肴が澤山出ましたが、私は肴は澤山食べませんけれども、酒を十分に呑んで參りました、濟ませんげれども先生十兩ばかり貸して下さいまし、子分衆へ肴代とでもしてやりたいと思ふのでございますが』

之れを聞いて兼光が

兼『兼重、額に疵があつて蟆の刺青をしてゐる男を見たと、お前嘘を吐いちやアならないぞ』

重『何アに嘘は向きやアしません』

兼『どうです村正殿』

側に聞いて居りました村正

寄せて、其の段八といふ者の様子を見て來やう』

と支度をして兼光は供をも連れず唯一人やつて參りましたのは、長船甚九郎の家

甚『之は先生能くお出でなさいましたどうか此方へ』

兼『貸元御免なさい』

と上へ通りまして

兼『此度は親分も御苦勞で宣い鹽梅に間違ひもなく、御祭禮も大層見事に出來ましたね』

甚『有難うございます』

兼『此の品は些少ながらどうか子分衆に上げて下さいまするやう、尚又私共の兼重の醉漢が相變らず御厄介を掛けて、殊に此方のお若

村『シテ見れば甚九郎どんといふ貸元さんの處に、如何さま段八といふ者がゐると見えます』

きた『ほんにマア……日頃信心をいたしまする足利六日様の御利益……』

兼『然らば斯ういたさう、甚九郎といふ人は此の祭禮の世話役となつて居るから是からチョッと私が祭禮の義理に顔を出し、何かに事い衆と間違ひをしたとかいふ事で嘸御迷惑でございましたらう』

甚『ナンのそんな御心配は御無用の事、平素賭場へ遊びに來て居なすつても決して手出しをしたことの無い兼重さん何か氣に障つたことがあつたと見え一言二言いつてゐる中に立廻りが初まつたので……』

兼『誠に兼重『まで』では始終私も困つて居ります、就て此方にお客様が來てお在だとか云ふ事ですか、何處かお出掛けになりましたか』

甚『ア、客人でございますか、何か御用て』

兼『ナニ外の事でもございませんが、兼重が此方の子分衆と喧嘩をした時に、間へ入つて口をきいて下つたといふこと、一寸お目に掛つて御禮申上げたいのでございますからどうか逢はして下さいまし』

甚『ア、左様でございますか、ナニそんなに御丁寧な事は要りまもんのに……』

兼『ナニ弟子の疎匆は矢張り私の粗忽も同じ事でございますから』

甚『相變らず先生の物堅いには恐れ入りました、オ、誰か居ねえか、客人をチョット呼んで來て呉んな』

子分が立つて呼びに行く暫らく經つて夫へ入つて參りましたのは例の向疵の段八

甚『サア客人、どうぞ此方へ……。先刻若い者が騒ぎ立つた時に、貴所が間に入つて口を利いて呉んなすつたので穏かになつた、那の兼重といふ人の此方はお師匠さんで音に響いた當國の長船兼光といふ先生、私とは兄弟同様の仲、どうかお近付になつて下さい、兼重さんが貴方に種々世話になつて辱ないと御禮旁々來なすつた』

段『是はどうも名も知れない私に、御叮嚀な御挨拶では却て恐れ入ります、私は下野八木の者て段八といふ吝な男、以來どうぞお見知り置かれて宜敷くどうか御別懇に願ひます』

自分の口から下野の八木の段八と云ふことを名乘つたから、兼光は腹の中でアヽ確に之に違ひないと思ひました。


三井タクシー
平町二丁目　電話六八五番

御愛乘下さい
シボレーに！
そは先驅者なり

一册の代金で
御希望通りな
五册の雜誌が
自由に讀める
川崎巡回文庫
（申込次第規則書進呈）
電六三〇番

耳鼻咽喉專門
入院應需
平町田町七〇番地
山内醫院
醫學士　山内亨吉
電話六九一

吸入用酸素
純度99%
モノサシ
マス
ハカリ
度量衡
体温器
寒暖計
度量計
◎秤ノ取緒。垂糸。修繕致シマス
開内商店
電話四〇番
◎寫眞材料一式販賣致シマス

玉炭
石炭
コークス
平驛前
阿部石炭商店
電話三七番